

●聖霊降臨主日

泉のほとり

今月の詩編「第百十三編」

わたしたちの神、

主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下つて天と地を御覧になる。



偽証してはならない

第九戒は「隣人に関して偽証してはならない」です。直訳しますと、「答えてはならない。隣人に対し、『偽りの証人』として」です。偽りの証言そのもの以前に、偽りの証人にならないことが戒められています。自己保身、自己都合、利得、利害関係といった人の「心のあり方」が既にあるゆえに、偽証が起こるのです。その人のありようは法廷という特殊な環境にのみ現れるわけではなく、むしろ日常のその人自身を投影しています。

実に日常に見られる隣人に対する「偽証」も多いのではないのでしょうか。例えば人を中傷する言葉は、隣人を不幸な境遇に陥れる「ため」に言う言葉です。中傷する心がある場合、自分にその自覚はなく、相手が実際、自分が言っている通りに見えるから、そう言っているのだと思うのです。人への憎しみや恨みがある場合、隣人を素直に見ることはできず、事実が歪められた形で見えてくるのが大いにあります。しかし、当人の目にはそれが隠されて見えず、自分が「偽証」しているとの認識はなく、むしろ「正しいことを言った」ということになるのです。ですから、この戒めは証言する前の段階で、人の中にある中傷や妬みなどを取り除き、「隣人を素直に見る心」になるよう求めていると言えます。

第九戒は神にかたどり造られた人を思い起こし、特に創世記3章の出来事を思い起こさせています。神に「食べたのか」と聞かれたアダムは、「あなたが私と一緒にいるようにされた女がくれたので食べた」と答えました。自分の善と悪で物事を見るようになった心は「女が悪い」、「この女を下さつたのはあなた」と、神の前でのまつすぐな「事実」を歪めるものでした。当人は決して偽りの証言をしているつもりはなく、自分の「見ていること」を主張しているのですが、そこには自分の義を主張し、自己保身を優先する、変質した人の心のあり方を見るものです。偽証する以前に、自己都合を優先する心による「善悪」。そこに既に事実を歪めて見る「偽り」が必然的なものとしてあります。

日常においての隣人への心が、常に自己の義ではなく、神の前、素直に隣人を見る心である人は、法廷に立たされる場面においてもその信仰は変わらないのです。主イエスは「神の国、神の義を求めなさい」と教えられました。言い換えれば、あなた自身の国を築く「自分の義」を捨てることです。神の本来よしとされたものではないものを捨て、キリストにある心を求めることです。

かつて「神の民」と言われたイスラエルが、わが主イエスにしたことを思い起こすのです。主イエスはあらゆる「偽りの証言」によって訴えられ、大祭司の偽りによる目の判断によって、「死」の宣告を受けました。総督ピラトに主の身柄が引き渡された時、ピラトは彼らが妬みゆえに「イエス」を引き渡したことを知っていたのです。しかし、当の本人たちは、神に仕えていると思っていたことを福音書は伝えていきます。

十字架の周りでは「メシアであろう。自分を救え」と。十字架架にされていた犯罪人も「救い主だろう。自分を救い、我々も救え」とあらゆる嘲りが、その口から出ていました。彼らはそれぞれ自分たちの正しいと思うことを口にしたのです。その言葉がごとごとく「偽り」であることに、誰一人気づきません。十字架は善悪を知る人の悲惨な姿を照らしています。十字架に照らされる人の罪深さ、それは私のことである。それが私たちの告白です。そして、そこから召し出されたことを心に刻みましょう。

神はその十字架の御子を通して、神の義を成し遂げられました。私たちがその真実なる証、十字架の証を受けて、かつての偽りを何もかも捨てて、キリストの跡をついていくためです。キリストによる神の御業が私自身を通して表されるよう、私たちがキリストの真実なる証人となるよう、この第九戒はすべての第一歩として与えられているのではないのでしょうか。「偽証してはならない」と。

この戒めに表されているキリストの真実なる証を愛し、私たちも隣人に対し、真実のみを表していきたいと願います。

(出エジプト二〇章一六節黄泥牧師)

《公 告》

左記により、今年度につきましては延期が決定しておりました四月教会総会を開催致します。現住陪餐会員はご参加下さい。

2026年5月10日
キリスト品川教会
代表役員 黄 允滉

記

日時 2026年5月24日(日) 13時
場所 グローリア・チャペル・地下ホール
及びリモート

議事

- 2025年度諸報告承認に関する件
- 2025年度教勢報告
- 2025年度行事報告
- 2025年度諸会計報告、財産目録

以上

《今日のお知らせ》

- 今日はペンテコステ礼拝です。聖霊が来てくださったことを感謝して礼拝をささげます。
- 礼拝後、地下ホールで祝会、愛餐会を行います。どうぞご参加ください。
- 一三時から教会総会を行います。教員はご参加ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《シオンの会より》

五月二十七日(水) 一〇時三〇分〜一二時シオンの会を地下ホールで行います。(オンラインも併用します。)
テキスト「使徒言行録を読もう」P.九三 一三祈る教会
(一二章一節〜一九節)を読みます。新しく参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《教会事務所より》

二〇二六年度の教員名簿作成のため、昨年度の名簿を本日の総会会場に置いております。内容に誤りがないかご確認いただき、ご住所やご連絡先に変更のある方は、ご記入をお願いいたします。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和
します。

【詩篇百十三篇】賛歌。

ハレルヤ。主の僕らよ、主を賛美せよ

主の御名を賛美せよ。

今よりとこしえに

主の御名がたえられるように。

日の昇るところから日の沈むところまで

主の御名が賛美されるように。

主はすべての国を超えて高くいまし

主の栄光は天を超えて輝く。

わたしたちの神、主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下って天と地を御覧になる。

弱い者を塵の中から起こし

乏しい者を芥の中から高く上げ

自由な人々の列に

民の自由な人々の列に返してください。

〔司・会〕

子のない女を家に返し

子を持つ母の喜びを与えてくださる。

ハレルヤ。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・礼拝堂)

説教 「その日、教会が生まれた」

聖書 使徒2章37〜42節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神と人々に愛された」

聖書 ルカ2章41〜52節

説教者 宮間 彰 広 兄

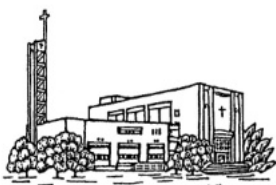
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 66番 336番

説教 「隣人の家を欲してはならない」

聖書 出エジプト20章17節

説教者 黄允湜 牧師





ペンテコステ礼拝 (午前10時30分)

讃美歌	181番	185番
説教	「真理の霊が悟らせること」	
聖書	ヨハネ16章5～15節(新約P.200)	
司式	山下 純一 兄	
聖餐司式	黄 允湜 牧師	
説教者	黄 允湜 牧師	

前奏曲「来たれ聖霊、主なる神」D.グスタフ

○讃美歌181番

1. みたまよ くだりて あいのほのお
冷えたるころにもやしたまえ
2. ほかなきかげのみ 追いさまよい
みかみをもとめて 日をかさねぬ
3. ささぐるうたには ちからもなく
たたえのこえだに くちにいでず
4. 血をもてすくえる 主をおもわず
死にたるさまにて いつまであらん
5. みたまよ 主イエスの あいの火もて
われらのころに くだりたまえ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「主よくだり給え」 S. ペセル作曲
来たり給えこの日 くだり給え聖霊よ
み名により集い 主とほめたたえ
わが主の命は 我らに満ちる
与えられしすべて信じ 日ごとに 祝福を祈る
そして我ら願う
来たり給えこの日 くだり給え聖霊よ
主の家族として ひとつの心
あなたの救いを 喜び受ける
祝福を給え 幼子たちに 若き者 老いたる者らすべてに
来たり給えこの日 くだり給え聖霊
主よ 来たり給え この日 くだり給え 聖霊
主よ 我らに

○讃美歌185番

1. きよきみたまよ おぐらきころ
てらしたまえや みひかりをもて
2. きよきみたまよ うちなるつみを
きよめたまえや みちからをもて
3. きよきみたまよ このうき身にも
みたしたまえや あまつよろこび
4. みたまよ たえず ころに住みて
おさめたまえや のこるくまなく

アーメン

聖餐曲「来たれ創り主なる聖霊」L.スミス

後奏曲「地よ喜べ、天よ喜べ」M.レガー